

あまいに乱暴

病床削減を許さない

12月の地方議会 論戦と運動が広がる

公立病院
統合問題

厚労省が、424の公立・公的病院を名指しして再編・統合を求めた問題で、12月議会を中心に各地でとりくみが広がっています。(京都・福知山の取り組みは15日付日曜版に掲載)

滋賀 「県が強制的に指導するという類のものではない」(県知事)

滋賀では節木県議が質問。すでに「一部の病院では、診療所からの入院患者の紹介が減少」(当局の答弁)しているといいます。知事は、「どれも大切な医療機関」「地域の実情を踏まえ、皆さんの声もお聞きしながら、丁寧に進めていきたい」「県が強制的に指導するという類のものではない」と答弁しました。

京都 医師不足の実態を無視し、拍車をかける「偏在対策」、病院再編・統合方針の撤回を

京都府議会では、光永府議が医師不足対策にかかわって質問。知事は「国に対して、地域医療構想調整会議の結果を十分に尊重するよう、強く要請したい」と答弁。光永府議は、医師の絶対数の不足を認めないまま「偏在対策」などを、病床削減と一体に進めようとする国の施策を批判し、「国と対峙するという立場に立った取り組みをしないと、医療提供体制崩壊につながる」「知事にはそういう決意と構えで臨んでいただきたい」と厳しく求めました。



和歌山 奥村県議質問に、医師不足は関西の「共通した深刻な問題」(関西広域連合)

和歌山県議会では、奥村県議が委員会質問。医療介護総合確保基金8億円の予算のうち、6億円までもが再編・統合事業だと批判。地域医療を守れと追及。これに先立つ11月の関西広域連合議会での奥村質問に当局は、医師不足は、関西の「共通した深刻な課題」との認識を示しています。

奈良 かけがえのない役割果たす病院を守れ

奈良県議会では太田県議が、各病院が無料定額診療に取り組んだり、発達に障害をもつ子どもたちの拠り所として重要な役割を果たしていることを指摘、再編・統合の押し付けを止めるよう国へ求めるべきだと迫りました。

兵庫 病院関係者、地域での共同を広げて

兵庫では、県議団が病院関係者と懇談。地域でも「病院を守る会」などが名前の挙がった病院と懇談。他の地域では、病院労組と地域住民との共同を広げる相談もはじまっています。

大阪 地域で連携をすすめ病院を守ろう

富田林では、地域の社保協を中心に病院関係者との懇談や、署名活動などに取り組んでいます。この医療圏は、3次救急を担っていた近大付属病院が移転。数年前には松原市民病院が廃止になっています。また、同圏域内の藤井寺市民病院も再編・統合の名前が挙がっています。

地域で連携して病院を守ろうととりくみが進められています。

近畿ブロック事務所ニュース

TEL06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 35 (2019. 12. 17.)

医師の抜本的増員こそ